| 科目コード | 51341 | 授業科目 | 実践精神看護特論Ⅰ<br>Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅰ | 担当教員 | ○未定、大川嶺子<br>村上満子<br>谷所敦史（非常勤）<br>西谷博則（非常勤） |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1年次前期 | 単位数 | 2単位 | 科目分類 | 専門科目・特論 | 授業形態 | 講　義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択（分野必修） | 時間数 | 30時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神保健医療福祉の変遷、制度や体制等について、文献を通して様々な視点から学び、現在の精神保健福祉法を人権擁護・倫理的観点から把握するとともに、生活の場におけるメンタルヘルスについて、関係法との関連性を理解する。 |
| 到達目標 | 1. 諸外国および我が国の精神保健福祉の歴史的背景について批判的視点から記述できる。<br>2. 精神保健福祉法の現状を理解し、現体制における倫理的問題と看護職の役割を概観できる。<br>3. 生活の場におけるメンタルヘルスの現状と課題および法制度との関連について記述できる。 |

| 回　数 | 授　業　内　容　及　び　計　画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 第１回 | 精神障害者を取り巻く社会状況の変化 | 未定 |
| 第２回 | 社会とメンタルヘルス | 〃 |
| 第３回 | 現代の精神保健：①精神保健とは　②心の健康　③ストレスなど | 〃 |
| 第４回 | 精神保健医療・看護の変遷　1：諸外国　2：日本　3：沖縄 | 大川嶺子 |
| 第５回 | 精神保健福祉の動向　1：法改正と患者の人権擁護 | 谷所敦史 |
| 第６回 | 〃　〃　2：障害者基本法 と社会参加 | （非常勤） |
| 第７回 | 〃　〃　3：ソーシャル　サポート（社会資源） | 〃 |
| 第８回 | 〃　〃　4：障害者基本法と自立支援法 | 〃 |
| 第９回 | 〃　〃　5：心身喪失者等医療観察法と司法精神看護 | 西谷博則 |
| 第10回 | 〃　〃　〃 | （非常勤） |
| 第11回 | 家庭におけるメンタルヘルスの現状と課題：①国民の心の健康づくり　②自殺対策基本法　③DV予防法等との関係 | 未定・村上 |
| 第12回 | 学校におけるメンタルヘルスの現状と課題：①学校保健安全法と児童生徒の心身の健康　②発達障害者支援法等との関係 | 〃 |
| 第13回 | 職場におけるメンタルヘルスの現状と課題：①職場のメンタルヘルス対策（メンタルチェック）　②THPにおける健康づくり等との関係 | 〃 |
| 第14回 | 精神保健福祉分野における法的・倫理的問題と看護職者の役割 | 〃 |
| 第15回 | まとめ | 〃 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 関連資料、文献などを適宜配付する。 |
| 参考文献 | 1)「我が国の精神保健福祉」（精神保健福祉研究会　監修）<br>2)学生および教員が各々分担し、文献・資料を収集し討議する。 |
| 成績評価の方法 | 講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。 |
| 備　考 | |

| 科　目<br>コード | 51342 | 授業<br>科目 | 実践精神看護特論Ⅱ<br>Practical Mental Health and<br>Psychiatric　Nursing Theory Ⅱ | 担当<br>教員 | ○未定<br>大川嶺子・村上満子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1年次前期 | 単位数 | 2単位 | 科目<br>分類 | 専門科目・特論 | 授業<br>形態 | 講　義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択(分野必修) | 時間数 | 30時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神看護に必要な基本的精神看護理論、対人関係論などを学び、対象の精神の健康状態をアセスメントし看護支援を展開するための基本について学ぶ。 |
| 到達目標 | 1. 精神看護に必要な基本的な概念や理論を活用し、精神の健康状態をアセスメントできる。<br>2. 対象をアセスメントし、適切な看護過程の展開について記述できる。 |

| 回　数 | 授　業　内　容　及　び　計　画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 第1回 | 実践精神看護における精神の健康状態のとらえ方 | 未定 |
| 第2回 | 精神障害の捉え方 | |
| 第3回 | 人格の発達と精神の健康状態：出生前期～乳児期 | 〃 |
| 第4回 | 〃　：学童期～思春期 | |
| 第5回 | 〃　：成人期 | 〃 |
| 第6回 | 〃　：老年期 | |
| 第7回 | 精神の健康状態のアセスメント：精神症状と状態像 | 村上満子 |
| 第8回 | ①不安状態・攻撃性を示す患者 | |
| 第9回 | 〃　②対人関係障害のある患者 | 〃 |
| 第10回 | | |
| 第11回 | 〃　③思考障害のある患者 | 大川嶺子 |
| 第12回 | | |
| 第13回 | 〃　④気分・感情障害のある患者 | 〃 |
| 第14回 | | |
| 第15回 | まとめ | 未定 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 関連資料、文献などを適宜配付する。 |
| 参考文献 | 文献・資料を収集し講義および討議を行う。 |
| 成績評価の方法 | 講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。 |
| 備　考 | |

| 科目コード | 51343 | 授業科目 | 実践精神看護特論Ⅲ<br>Practical Mental Health and Psychiatric Nursing TheoryⅢ | 担当教員 | ○未定<br>前田浩　（非常勤）<br>山田　豊（非常勤）<br>仲本晴男（非常勤）<br>島袋静香（非常勤） |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1年次後期 | 単位数 | 2単位 | 科目分類 | 専門科目・特論 | 授業形態 | 講　義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択（分野必修） | 時間数 | 30時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神医療領域で使われる個人および集団を対象とした精神療法の基礎について学び、看護援助としての活用方法を考える。 |
| 到達目標 | 1. 精神看護の関連技法の概要と特徴について理解する。<br>2. 各種の治療法の概要と特徴を理解し、看護との関係及び看護への活用を考える。 |

| 授業回数 | 授業内容及び計画 | | 担当者名 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 精神看護の関連技法における看護の役割 | | 未定 |
| 第2回 | 精神看護と関連技法①：ホリスティックアプローチ<br>リラクゼーション | | |
| 第3回 | 精神看護と関連技法② | 精神科薬物療法 | 前田　浩 |
| 第4回 | 〃 | 〃 | （非常勤） |
| 第5回 | 精神看護と関連技法③ | 生活療法（社会生活技能訓練） | 山田　豊 |
| 第6回 | 〃 | 〃 | （非常勤） |
| 第7回 | 精神看護と関連技法④ | 認知行動療法 | 仲本晴男 |
| 第8回 | 〃 | 〃 | （非常勤） |
| 第9回 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 第10回 | 〃 | 〃 | |
| 第11回 | 精神看護と関連技法⑤ | 家族療法(1) | 島袋静香 |
| 第12回 | 〃 | 〃 | （非常勤） |
| 第13回 | 精神看護と関連技法⑥ | 家族療法(2) | 〃 |
| 第14回 | 〃 | 〃 | |
| 第15回 | まとめ | | 未定 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 坂田三允 総編集.(2005).精神看護エクスペール13　精神看護と関連技法.中山書店. |
| 参考文献 | 文献・資料を収集し講義および討議を行う。 |
| 成績評価の方法 | 講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。 |
| 備　考 | |

| 科　目<br>コード | 51344 | 授業<br>科目 | 実践精神看護特論Ⅳ<br>Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅳ | 担当<br>教員 | ○未定 |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1年次後期 | 単位数 | 2単位 | 科目<br>分類 | 専門科目・特論 | 授業<br>形態 | 講　義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択(分野必修) | 時間数 | 30時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神看護領域における基本的な援助技術についての理論と技術を学ぶ。 |
| 到達目標 | 1.精神看護領域における対象との治療的人間関係に関する理論を理解し，実践への応用を考える。<br>2.精神看護実践における基本的な援助方法に関する理論を理解し，適切にアセスメントができる。<br>3.精神看護実践において理論を活用する際の専門看護師の役割行動を理解する。 |

| 回　数 | 授　業　内　容　及　び　計　画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 第１回 | 精神看護実践のための対象理解の理論 | 未定 |
| 第２回 | ①エリクソン発達理論 | |
| | ②精神分析論，防衛機制 | |
| 第３回 | 〃　③ストレス脆弱性・対処モデル | |
| 第４回 | ④ニーズ論 | |
| 第５回 | 〃　⑤セルフケア論 | |
| 第６回 | ⑥対人関係論 | |
| 第７回 | 精神科リハビリテーション看護　ストレングス・リカバリー①② | |
| 第８回 | 〃 | |
| 第９回 | 精神看護実践における危機状況と看護アセスメント①② | |
| 第10回 | 〃 | |
| 第11回 | 精神障害者の文化的背景の理解と受療継続への援助①② | |
| 第12回 | 〃 | |
| 第13回 | 精神看護専門職者の役割と多職種との連携 | |
| 第14回 | チーム医療における精神専門看護師の役割 | |
| 第15回 | まとめ | |

| | |
|---|---|
| テキスト | Gail W Stuart他編著,安保寛明,宮本有紀監訳.(2007).精神科看護―原理と実践.医学書院. |
| 参考文献 | 1)A OTooL他編,池田明子他訳.ペプロウ看護論 看護実践における対人関係論.医学書院.<br>2)Orem DE著,小野寺杜起訳.オレム看護論,看護実践における基本概念.医学書院. |
| 成績評価の方法 | 講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。 |
| 備　考 | |

| 科目コード | 51345 | 授業科目 | 実践精神看護演習Ⅰ<br>Practical Mental Health and Psychiatric Nursing SeminarⅠ | 担当教員 | ○未定　大川嶺子<br>渡久山朝裕　村上満子<br>高江洲義英（非常勤） |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1～2年次 | 単位数 | 2単位 | 科目分類 | 専門科目・演習 | 授業形態 | 演習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択(分野必修) | 時間数 | 60時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神看護に必要な基本的精神看護理論、精神療法、対人関係論などについて演習する。<br>また、文献学習を通して各自の関心のある実践領域におけるセラピーの活用法を考える。 |
| 到達目標 | 1. 精神看護に必要な精神療法に関する文献学習を通し，実践への活用と評価(効果)について理解する。<br>2. 精神看護の関連技法の演習をとおし、自分自身の実践課題について多方面から検討できる。 |

| 授業回数 | 授業内容及び計画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 第1･2回 | 精神看護に必要な精神療法に関する文献学習： | 未定 |
| 第3･4回 | ①集団療法および個人療法<br>②家族療法および心理教育 | 〃 |
| 第5･6回 | 精神力動看護，対人関係に関する文献講読 | 村上満子 |
| 第7･8回 | 〃 | 〃 |
| 第9･10回 | リラクゼーション技法に関する文献講読： | 大川嶺子 |
| 第11･12回 | ホリスティックアプローチ(呼吸法・漸進的筋弛緩法等) | 〃 |
| 第13･14回 | リラクゼーション技法の適用 ：不安・不眠・痛み | 〃 |
| 第15･16回 | 〃 | 〃 |
| 第17･18回 | 心理療法（講義・体験学習） | 渡久山朝裕 |
| 第19･20回 | 対人関係技法（講義・体験学習） | 〃 |
| 第21･22回 | 自律訓練法（講義・体験学習） | 〃 |
| 第23･24回 | 〃 | 〃 |
| 第25･26回 | 芸術療法　（見学・体験学習） | 高江洲義英 |
| 第27･28回 | ①絵画療法　②音楽療法　③園芸療法　その他 | (非常勤) |
| 第29･30回 | まとめ | 未定 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 坂田三允 総編集.(2005).精神看護エクスペール13　精神看護と関連技法.中山書店. |
| 参考文献 | 文献・資料を収集し講義および討議を行う。 |
| 成績評価の方法 | 演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。 |
| 備考 | |

| 科　目<br>コード | 51346 | 授業<br>科目 | 実践精神看護演習Ⅱ<br>Practical Mental Health and<br>Psychiatric Nursing Seminar Ⅱ | 担当<br>教員 | ○未定<br>大川嶺子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1～2年次 | 単位数 | 2単位 | 科目<br>分類 | 専門科目・演習 | 授業<br>形態 | 演　習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択（分野必修） | 時間数 | 60時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神看護領域における基本的な援助技術について演習する。また、事例検討や文献学習を通して自己の実践課題を明確化する。 |
| 到達目標 | 1. 事例検討を通して、自分の看護実践をふりかえり、アセスメント能力を高める。<br>2. 対応困難な患者の看護場面の「再構成」を用いて、患者との相互作用を分析する。<br>3. 関連文献の学習を通して、自己の実践課題を明確化する。 |

| 回　数 | 授　業　内　容　及　び　計　画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 第 1･2 回 | 臨床で関わった事例についての検討 ① | 大川嶺子 |
| 第 3･4 回 | 〃　② | 〃 |
| 第 5･6 回 | 事例のアセスメント　セルフケア論 | 〃 |
| 第 7･8 回 | 上記事例①について；文献学習により理解を深める。<br>事例報告書を作成する。 | 〃 |
| 第 9･10 回 | 上記事例②について；文献学習により理解を深める | 〃 |
| 第 11･12 回 | 事例報告書を作成する。 | 〃 |
| 第 13･14 回 | 事例のアセスメント　看護過程の展開と看護診断 | 未定 |
| 第 15･16 回 | 〃 | 〃 |
| 第 17･18 回 | 看護場面の再構成法 | 〃 |
| 第 19･20 回 | ①対応困難場面を再構し，自己洞察を深める。 | 〃 |
| 第 21･22 回 | ②コミュニケーション技法を意識した効果的な援助技術を高める。 | 〃 |
| 第 23･24 回 | 〃 | 〃 |
| 第 25･26 回 | 事例検討・文献学習を通して自己の実践課題を明確化し、 | 〃 |
| 第 27･28 回 | レポートを作成する。これらを実習や看護実践に役立てる。 | 〃 |
| 第 29･30 回 | まとめ | |

| | |
|---|---|
| テキスト | 関連資料、文献などを適宜配付する。 |
| 参考文献 | 宮本真巳．(1995)．看護場面の再構成．日本看護協会出版会． |
| 成績評価の方法 | 演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。 |
| 備　考 | |

| 科目コード | 51347 | 授業科目 | 実践精神看護実習Ⅰ<br>Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum Ⅰ | 担当教員 | ○未定<br>大川嶺子・村上満子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1～2年次 | 単位数 | 4単位 | 科目分類 | 専門科目・実習 | 授業形態 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択(分野必修) | 時間数 | 180時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 病院・精神保健施設等の実習施設において、対象者に直接的ケアを実施しながら、ケース間のグループダイナミックス、コンサルテーション、コーディネーションなどについて体験学習する。 |
| 到達目標 | 1. 実習施設において人権に配慮したモデルとしての看護が実施できる。<br>2. 対応困難な患者に対する看護過程を展開し、その結果を評価し、事例報告ができる。<br>3. 看護スタッフの機会教育の場としてケースカンファレンスを活用する。 |

| 回数 | 授業内容及び計画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 実習期間<br><br>3週間 | 平成　年　月　日(　)～　月　日(　)<br><br>1）急性期の患者を2例（対応困難事例を含む）受け持ち、<br>到達目標に沿って実習する。<br><br>実習施設：医療法人卯の会　新垣病院（於：精神科救急病棟） | (実習調整)<br>看護部長<br><br>(実習指導)<br>病棟課長 |
| 3週間 | 平成　年　月　日(　)～　月　日(　)<br>2）慢性期・回復期にある対象者を2例（対応困難事例を含む）<br>受け持ち、到達目標に沿って実習し、社会復帰に向けての<br>地域内の関係機関・施設・家族への支援を行う。<br><br>実習施設：県立精和病院 | (実習調整)<br>看護部長<br><br>(実習指導)<br>看護師長・<br>専門看護師 |
| | *ケースカンファレンス；指導教員のスーパービジョンをうけながら、<br>定期的にカンファレンスを実施し、受持ち事例について検討する。<br>*ケースレポートの作成：対応困難事例についてケースレポートを<br>作成し、看護実践上の課題について考察する。 | 未定<br>大川嶺子 |

| | |
|---|---|
| **テキスト | 関連資料、文献などを適宜配付する。 |
| 参考文献 | 1)宇佐美しおり,野末聖香.（2009）.精神看護スペシャリストに必要な理論と技法.<br>日本看護協会出版会.<br>2)適宜参考文献・資料等を収集・提示し講義検討を行う。 |
| 成績評価の方法 | レポート、実習先での実習態度、実習施設職員からの客観的評価などを総合して評価を行う。 |
| 備考 | |

| 科　目<br>コード | 51348 | 授業<br>科目 | 実践精神看護実習Ⅱ<br>Mental Health and Psychiatric Nursing　Practicum　Ⅱ | 担当<br>教員 | ○未定<br>大川嶺子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1～2年次 | 単位数 | 2単位 | 科目<br>分類 | 専門科目・実習 | 授業<br>形態 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択（分野必修） | 時間数 | 90時間 | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 精神看護専門看護師の働いている施設で実習し、専門看護師の役割･機能の実際を学ぶ。 |
| 到達目標 | 1. 組織の中での専門看護師の位置づけ、活用のされ方、看護管理者との関係などを知る。<br>2.　専門看護師と共にコンサルテーション、コーディネーションなどを体験学習する。<br>3.　専門看護師の教育研究活動の実際を知り、可能な範囲で活動に参加する。 |

| 回　数 | 授　業　内　容　及　び　計　画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| 実習期間<br>3週間 | 専門看護師に同行し、実際の活動を体験学習する。<br>＊実習施設（県内）；医療法人天仁会　天久台病院<br>実習期間；平成　　年　（2週間）<br>＊実習施設（県外）；医療法人社団碧水会　長谷川病院<br>実習期間；平成　　年　（1週間以上）<br>１）ＣＮＳの指導を受けながら実際の活動に参加し、 専門看護師に<br>に求められる役割・機能（実践、教育、相談、調整,研究、倫理）に<br>ついて体験学習する。<br>２）実習Ｉで習得した知識・技能と照合しながらＣＮＳの役割行動<br>について考察し、実習レポートを作成する。<br>３）実習レポートに基づいて担当教員とカンファレンスを行い、<br>今後の課題を明確化する。<br>専門看護師および指導教員のスーパーバイズを受ける。 | （専門看護師）<br>（専門看護師）<br>未定<br>大川嶺子 |

| | |
|---|---|
| テキスト | 関連資料、文献などを適宜配付する。 |
| 参考文献 | 宇佐美しおり・野末聖香編「精神科スペシャリストに必要な理論と技法」（日看協出版会）<br>井部俊子他「専門看護師の志向と実践」（医学書院） |
| 成績評価の方法 | レポート、実習先での実習態度、実習指導者からの客観的評価などを総合して評価する。 |
| 備　考 | |

| 科　目<br>コード | 51349 | 授業<br>科目 | 実践精神看護課題研究<br>Mental Health and Psychiatric Nursing Problem Study | 担当<br>教員 | ◎未定<br>大川嶺子<br>村上満子 |
|---|---|---|---|---|---|

| 開講年次 | 博士前期課程<br>1～2年次 | 単位数 | ２単位 | 科目<br>分類 | 専門科目・課題研究 | 授業<br>形態 | 演習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択必修 | 選択(分野必修) | 時間数 | 60時間 | | | | |

| 授業概要 | 精神看護領域に関連した現場で（自分が）直面する課題に焦点をあて、講義･演習･実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。 |
|---|---|
| 到達目標 | 1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。<br>2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。<br>3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。 |

| 回　数 | 授　業　内　容　及　び　計　画 | 担当者名 |
|---|---|---|
| | ＜2年間での修了予定の場合＞ | |
| １年次 | 4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション*<br>研究指導教員希望届の提出・決定*<br>履修指導、履修届の提出*<br>＜11月～6月　CNS実習Ⅰ（4単位）＞<br>実習体験を通して課題を明確化する。 | 未定<br>大川嶺子<br>村上満子 |
| 2年次 | 4月　課題研究計画書の作成<br>研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定<br>5月　研究課題にそって情報収集・情報分析<br>＜7月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞<br>10月(4月)　課題研究報告書作成<br>主査・副査の決定　考察・論文作成<br>12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出 ＊<br>1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 ＊<br>2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験 ＊<br>合否及び修了判定<br>3月(9月)　公開発表会 ＊<br>課題研究報告書(保存版)の提出 ＊<br>※(　)内は前学期修了予定の日程 | |
| ・・・・ | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| | ＜3年間での修了予定の場合＞ | |
| 1年次 | 4月　入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション*<br>研究指導教員希望届の提出・決定*<br>履修指導、履修届の提出*<br>＜11月～3月　CNS実習Ⅰ（2単位）＞<br>実習体験を通して課題を明確化する。 | |

博士前期課程
博士後期課程

| | | |
|---|---|---|
| ２年次<br><br>３年次 | ＜4月～3月　CNS実習Ⅰ（2単位）＞<br>実習体験を通して課題を明確化する。<br>4月　課題研究計画書の作成<br>研究倫理審査申請　研究フィールドの依頼と決定<br>5月　研究課題にそって情報収集・情報分析<br>＜4月～　CNS実習Ⅱ(2単位)＞<br>10月(4月)　課題研究報告書作成<br>主査・副査の決定　考察・論文作成<br>12月(6月)　課題研究報告書（第１稿）・学位審査申請書の提出*<br>1月(7月)　中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出*<br>2月(8月)　課題研究報告書審査・最終試験*<br>合否及び修了判定<br>3月(9月)　公開発表会*<br>課題研究報告書(保存版)の提出*<br>※(　)内は前学期修了予定の日程 | |
| **テキスト** | 関連資料、文献などを適宜配付する。 | |
| **参考文献** | 必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。 | |
| **成績評価の方法** | 審査委員会により総合科目試験（口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭又は筆答による）を行う。 | |
| **備　考** | 注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。<br>◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。 | |